



Fact Sheet は、CBPR では「わかりやすい言葉で、定期的に、研究活動についての情報をパートナーらと共有する」ために活用します(Israel, 2005,p.298)。本プロジェクトにおいても、Fact Sheet を定期的に発行し、ANCC プロジェクト研究の進捗の概要やデータを共有し、関連するトピックや文献などからの研究成果等も含めます。

Steering Committee Members:野地有子,溝部昌子

Steering Committee Partners:北池正,望月由紀,辻村真由子,池崎澄江,田所良之,鈴木友子,若杉歩
大友英子,西山正恵,池袋昌子,小嶋純,菅田勝也

質問紙調査による国際比較研究の方法に関する課題 調査票翻訳のプロセスについて (その 1)

報告者：溝部 昌子

本研究では、医療施設の国際化対応、看護学生・看護師のカルチュラル・コンピテンスの測定など、いくつかの質問紙調査と国際比較調査を予定している。既存スケールは、英語版、韓国語版があり、我々は日本語翻訳版の作成、日本語調査票の英語翻訳版を作成し用いるため、その方法論についてまとめた。主に、真鍋氏、Brislin 氏による国際比較研究における方法論に関する記述と、日本語版翻訳作成過程を示した和文献に基づく。

1. 国際比較調査

社会科学領域では、1980 年台から通文化国際比較研究における方法論の整備、データライブラリーの設立が進められてきた。大規模調査は、欧米、東アジア圏に大きく分かれ、前者には世界価値観調査 (WVS)、国際社会調査プログラム (ISSP) が、後者には、アジア・パノメータ (AB)、アジア・パノメータ (AnB)、東アジア価値観国際比較調査 (EVAS) が含まれる。これらの調査結果から、「宗教意識」と「価値観」が深く結びついていることが示されている。

Cross-Cultural Comparison 異文化比較と多くの国々を同時に研究対象とした国際比較研究は厳密には異なり、前者は歴史が古く、後者は比較的新しい。後者は、理論的仮説検証型、社会的現実記述型に二分される。国際比較研究では、それぞれの国は分析の対象であり、調査は「反復、繰り返し」となる。調査は、文字通りの反復 = 概念的に等価でない場合がある。

国際比較の測定の機能的な等価性に関しては、様々な問題を含んでいる。被調査者の個人的属性や社会環境に関する質問項目、被調査者の意見・態度・行動に関する質問項目に生じ得る。同じ質問項目であったとしても、社会的現実を反映して実質的な意味は多様となる。翻訳における問題に対しては、逆翻訳、脱中心化という技法があるが、翻訳研究と社会調査研究においても考え方が一致しない面があり、テキスト分析や談話分析、言語学、コミュニケーションモデルなど種々の技法が試みられている。

データ分析には次のようなものを含む。①質問項目ごとの

単純集計表を比較することで、回答パターンをみる。②クロス集計表などを用いた 2 変数間の関係、多変数間の関係をみる。③クラスター分析、因子分析、多次元尺度解析法などの多変量解析の技法を用いて、多変数間の関係の構造をみる。

2. 等価性確立のための方法論

調査項目作成、調査票のプリテスト、データ収集、データの解釈の 4 段階における等価性確立のための方法がある。調査票プリテスト段階では、プローブ法/面接(プローブ法、認知的面接法)、レスポンスカテゴリーの強度測定、行動コーディング、異なるデータ収集方法が回答に与える影響の検討がある。

プローブ法では、「それはどのような意味ですか?」と問い、項目の理解の困難さを明らかにする。認知的面接法では、「思っていることをそのまま口に出して行う面接」で、質問の意味を理解について情報を得る。レスポンス・カテゴリー強度の測定は、「そう思う/思わない」「非常に-かなり-やや-どちらとも言わない」などの段階や強度、評定法について回答者の反応の違いから形式を検討する。行動コーディングは、項目の理解の難しさに関する回答者の行動を分析する。異なるデータ収集法は、「電話調査」「面接調査」などの方法の違いが回答に与える影響を考慮する必要がある。

データ収集段階では、通文化的比較調査/国際比較調査に用いられた様々な技法を用いており、解釈の等価性と手続きの等価性が得られている場合、多重指標を使用する。また、多重指標の使用を超えて、エティック、イーミック質問を同時に含めることによって、普遍的あるいは特異的な項目を採用することになる。面接者と回答者のデモグラフィック標識のマッチングは、回答しやすさ、結果に影響するため、両者の社会的距離の近くを小さくする必要がある。

3. データ解析段階における等価性確立の方法

3.1 項目分析

「わからない」回答割合が高いと、解釈上の等価性は保

証されないとする。

3.2 項目分析以外の予備的分析

黙従 acquiescence や社会的望ましさ social desirability に回答が歪められる傾向、レスポンス・スタイルに通文化的差異があるかを検討する。特定の構成概念についての多重指標の相関パターンが文化的諸集団を超えて類似しているか、解釈上の等価性の1指標。尺度信頼性を文化的諸集団を超えて比較することによって、手続き上の等価性を検証する。

3.3 項目反応理論 (item response theory)

文化的諸集団を超えて反応が類似するもの、しないものを項目標識カーブ (item characteristic curves) によって比較する。翻訳の等価性の評価、尺度項目の通文化的妥当性の評価に用いられる。複数の項目によって測定される潜在傾向 (latent trait) は一元的という概念に基づいているが、多数の項目が必要で現実的でない。二分法データを用いる。

3.4 確証的因子分析(confirmatory factor analysis)

「測定モデル」→「一指標モデル」「多重指標モデル」
χ²乗統計による質問項目の等価性を評価、手続き上の等価性を高める。少数の質問項目の検討にも有用。

(「因果モデル」=概念間の関係の解明)

3.5 多次元尺度法

調査の測度の構造の通文化的比較。複数の測度の類似性の検討を通して、背後にある構造を明らかにする。

3.6 一般化可能性理論

翻訳された質問諸項目の等価性の確認。分散分析により、①言語の影響、②個人々の影響、③それ以外の諸変数の影響、諸変数の相互作用によってもたらされる変異性を除去できる。

3.7 手続き上の等価性確立のための分析的アプローチ

文化の影響からのアプローチ。社会経済的地位、文化の荷解き。人種、出生国による違い。

3.8 アイデンティティ等価性

解釈上の等価性と手続き上の等価性を一致させる狙い。エティック+イーミック分析に類似

4 . Brislinのいう逆翻訳法

翻訳家がチームとなって、順翻訳と逆翻訳を繰り返していく。複数の独立したバイリンガル翻訳家が必要。一人の翻訳家が原文から目標言語に翻訳、別の翻訳家がそれをオリジナルの言語に逆翻訳する。逆翻訳版に差異があれば、別の翻訳家が再度その項目を翻訳する。合意されるまでこのプロセスを続ける。言葉、言い回し、文法上、体験的、概念的等価性について検討する。

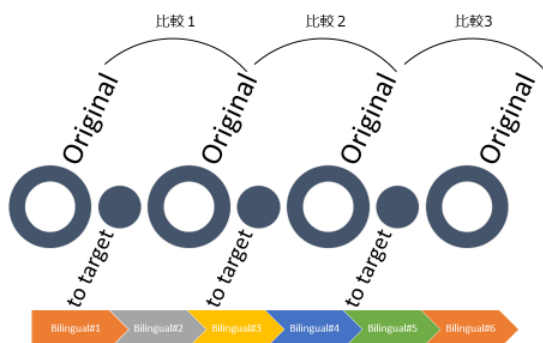


図1 Brislin's back translation model

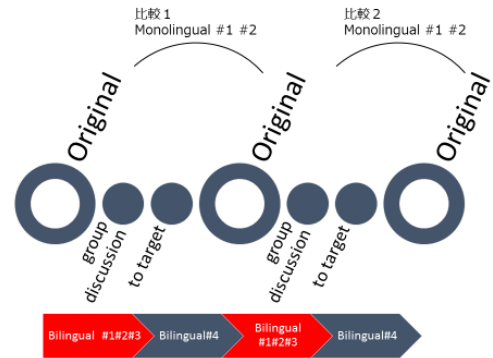


図2 Cha ESらの文献で用いられた翻訳プロセス
Modified Brislin translation model

Cha ESらは、英語版 SAES(Sexual Abstinence Efficacy Scale), mPSAS(modified Premarital Sexual attitude Scale)韓国語翻訳版作成にあたり、Brislinの翻訳法を変法した。韓国語、英語のバイリンガル翻訳者を複数見つけることは難しかったから。

5 . 日本語翻訳版スケールの妥当性研究では

研究者を含む独立した2名以上の翻訳者によるもの、複数人で翻訳を検討し、逆翻訳を繰り返していくものなどあった。逆翻訳について開発者に意見を求める、翻訳者または委員の背景、逆翻訳の回数など翻訳の等価性を示す手続きが示されていた。しかしながら、翻訳には、意味を重視するか、あるいはコミュニケーションを重視するかによって、項目の理解にずれが生じ、また項目に対する回答尺度、反応を正しくと捉えられるかについて疑問がある。

順翻訳-逆翻訳を繰り返していくだけではなく、尺度開発者と熟練者、翻訳者が話し合いの中で相互的にやり取りをしながら検討していくことがよさそうである。

6 . 文献

- 真鍋一史 (1999) : 質問紙法に基づく国際比較調査の現状と課題 *Journal of International Cooperation Studies(神戸大学紀要国際協力論集)*,7(2):67-81
- 真鍋一史 (2004) : 通文化比較調査の予備国際比較調査の方法論的課題-等価性確立のための方法論の開発-. 関西学院大学社会学部紀要 96:95-110
- 真鍋一史 (2012) : 東アジアにおける宗教意識と伝統的な価値観-国際比較調査のデータ分析-. 青山総合文化政策学 4(2):327-345
- 工藤真由美、中山洋子ら (2011) : フィンランド語で開発された看護実践能力を測定する尺度(質問紙)の翻訳の等価性の確認. 福島県立医科大学看護学部紀要 13:19-30
- Brislin (1976) : Comparative research methodology: Cross-cultural studies, 11:215-229
- Tiandis HC and Brislin RW(1984): Cross-Cultural Psychology,39(9):1006-1016
- Sinaiko HW(1973): Evaluating language translations: experiments of three assessment methods,57(3):328-334
- Cha ES, Kim KH and Erlen JA(2007): Translation of scales in cross-cultural research: issues and techniques, Journal of Advanced Nursing 58(4):386-395
- 緒方泰子,永野みどり,赤沼智子 (2008) : The Practice Environment Scale of the Nursing Work Index(PES-NWI)日本語版作成, 千葉大学看護学部紀要 30:19-24
- 佐々木美奈子,菅田勝也 (2011) : 日本語版職務エンパワメント尺度の開発,日本看護科学学会誌 31(2):52-59
- 岩本喜久子,福田裕子,廣岡佳代 (2012) : Bereavement Risk Assessment Tool(BRAT)の日本語訳版作成, 日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団 2011 年度調査研究報告, 25-29